かれ、2日間で73人が訪れた。相島貝合わせと呼ばれるもので、源氏物語や百人一首の世界、柏市内の風景などが描かれた対の貝を神経衰弱の要領で当て楽しんだ。

貝合わせは、貝の大きさや模様をみて対の貝を当てる。見事に当てると、貝の内側に描かれた百人一首や市内の有名な観光地などが楽しめた。かつては貴族が嗜んだもの。

貝合わせを楽しんだ

## 家のあり方を考える

No.539

あけぼの

鈴木一功

超高齢社会、空き家増加などを含む2025年問題の到来は、これからの住まいのあり方を真剣に考える良い機会です。

まずは、家の在り方。地震に強く、断熱性の高い省エネ住宅は、とても大事な考え方です。しかし、どんなに高性能な家であっても、ライフスタイルの変化に柔軟に対応できない家は、ドアの開閉、開口部、段差など、リフォーム発生のリスクを常に抱えます。これからの住まいには、家族構成、年齢、性別、障害、文化、病気、ケガなど、多様性を受容するバリアフリーユニバーサルデザインがもっとも大切です。

次に、環境のあり方。国は、生産年齢人口の減少や人材不足に伴い、地域包括ケアシステムの構築を推奨しています。今後、行政の支援は、全地域平等の支援から、人口集約型のエリア支援に変わっていきます。人口密度の低い郊外においては、独自のコミュニティーづくりも必要でしょう。

ここで質問ですが、左利きの人は、右利き社会の中で、様々な不自由さを感じています。しかし、この世がすべて左利きの人であれば、どうでしょうか。また、車いすの方ばかりの世界に、段差や階段などは、存在するでしょうか？これらが意味することは、バリア（障害）というのは人ではなく、環境にあるということを示しています。まさに、三方良しのまちづくりです。

今まで〝人生折り返し〟という言葉を耳にしました。これからは人生の3度の節目を意識する〝人生100年時代〟です。個人も企業も行政も互いに手を取り、30年前を大切に30年先の未来を真剣に考える時代が来たのだと、私は感じております。

企業は、社会の問題解決となる住まいづくりや独自性のあるコンテンツを創造し、行政は、そこで生まれたコミュニティーならではの生活支援を強化する。暮らす人の喜びは高まり、持続可能なビジネスモデルが確立します。

今後は、車いす生活の方が暮らしやすい町会、認知症の方にとって安心安全なマンション、特別支援学校に通う子どもが喜ぶサービス付きのエリアなど、同じ様な暮らしの不自由さを感じている方々が自然と集まる環境づくりが大切です。

（柏♡暮らしまもり隊会長）

力作を手にする児童ら

名戸ヶ谷小学校（笹間ひろみ校長、児童326人）は先月13、14、20日の3日間、全校児童で詠んだ俳句を授業参観に訪れた父兄に公開した。笹間校長が「言葉の力を学び、身につけるきっかけにしたい」と企画したもの。1月末から2週間かけて、笹間校長自ら教壇に立ち、全クラスを指導した。

3年生以上は、すでに国語の授業で俳句にふれているが、2年生以下は初体験。児童らは、五・七・五で作る行程を「楽しかった」「難しかったけど、いい俳句ができた」と満喫した様子だった。

子どもらの創作は、大人の想像を超えた。「うめの木や／かぜにふかれる／かえり道」と詠んだのは、吉次七海さん（2年）。登下校の道を詠んだと思いきや、その景色に梅はないという。「梅の木が大好きだから、帰り道にあったらうれしい。梅が風にふかれていたらきれいだから」と吉次さん。

笹間校長は「自分の言葉で上手に作っていて驚いた」と笑う。同校では論語の暗唱や授業の延長線に置く自主学習ノートなど、授業時間外の学びを重視。俳句詠みでみえた成長を笹間校長は喜んでいた。

## 「地域で支える」を実践

### 豊四季台地域で第３回さんあい祭り

「第3回さんあい祭り～つなげよう、広げよう、みんなの輪～」（豊四季台地域支えあい会議主催）が先月23日に柏地域医療連携センターで開かれ、大勢の地域住民で賑わった。柏市と柏市社会福祉協議会、東京大学の三者が進める、長寿社会を見据えた持続可能な地域づくりをめざす20ある協議体「支えあい会議」のうち、豊四季台地域の取り組み。

当日は、同会議を構成するふるさと協議会メンバーや地元でケアラーズカフェを運営する住民団体、フレイルサポーターなど、多彩な顔ぶれが揃った。住民同士で地域課題を語り合う「支えあい懇談会」展示。柏市財「篠籠田の囃子を担や柏第三中と交流し、化社会と向なった。

在宅医療あいの地域う柏市役所宮島浩二部いの関係

「どこかにはなく、相のが、持続あり方では

―10日午後時。一般2以下千円。27―92員会

◇くみちゃ11、25日午